（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和４年度　学校自己評価システムシート（県立和光南特別支援学校）　W46

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校

重点目標	１　充実した授業づくり ２　開かれた学校づくり ３　健康で安全安心な学校づくり ４　進路指導の充実

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 昨年度までの３年にわたる学校研究によって、新学習指導要領への教員の理解は深まっている。 【課題】 学校研究の研究成果を活かし、指導と評価の一体化を踏まえたPDCAサイクルによる授業改善の定着と、新学習指導要領の趣旨を踏まえた本校のこれからの学びの提案が課題となる。	① 学校研究の研究成果を活用した授業改善の工夫 ② 新たな「目指す学校像」の創造	①-1 指導と評価の一体化を図った授業改善の工夫 ①-2 本年度の学校研究のテーマである図画工作・美術の授業づくりの研究の充実 ② 新しい学習指導要領の学びのポイントを踏まえ、これからの本校の在り方を構想し、意見や希望を広く募って新たな「目指す学校像」を構築する。	①-1 全教員がPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだか。 ①-2 全教員が図画工作・美術の研究授業に取り組めたか。 ② 新しい「目指す学校像」を定めることができたか。				
2	【現状】 本校のセンター的機能としてのケース会議や巡回相談などの地域貢献は、一定の評価をいただいている。 【課題】 センター的機能について、あまり認知されていない面が見られた。ICTの有効活用などの工夫と、地域社会のニーズに応えうる本校の在り方が課題となる。	① センター的機能の発揮継続と積極的な情報発信 ② コミュニティースクール化の推進	①-1 センター的機能を継続して発揮して地域支援のネットワークづくりを推進する。 ①-2 センター的機能の取組や成果などを随時情報発信する。 ② 令和５年度から学校運営協議会を設置するための準備と基盤を整備する。	①-1 校内外のニーズを把握し、校内ケース会議や外部巡回相談を実施できたか。 ①-2 センター的機能の取組をHPで配信し、保護者の認知は向上したか。 ② 令和５年度からのコミュニティースクール制度の導入ができるようになったか。				
3	【現状】 工夫と臨機応変な対応により、学校行事などを実施できた。昨年度の感染防止対策は、保護者から98%の肯定的な評価をいただいた。 【課題】 継続した安全・安心な学校環境の整備と、学習保障のための具体的な取組が必要となる。また、学校における働き方改革の推進も課題である。	① 徹底した感染防止対策の継続 ② 学習保障のための取組 ③ 実効性のある教職員の負担軽減	① 学校内における感染症のまん延を未然に防止する。 ② 家庭でのタブレット端末を利用しての学習と、ICTを有効活用した授業の工夫 ③ 分掌や委員会の整理統合の推進と業務の効率化及び業務量の均等化	① 柔軟に学校行事を計画し、実施できたか。 ②-1 タブレット端末の貸与規定等を整備したか。 ②-2 ICTを有効活用した授業実践は増加したか。 ③-1 分掌や委員会の整理統合はさらに進んだか。 ③-2 業務削減の具体的な取組を行ったか。				
4	【現状】 進路指導に関する研修や保護者会の取組、外部機関との緊密な連携により、進路実績はおおむね目標を達成できている。 【課題】 12年間を見通した系統的・計画的で連続性のある組織的な学校就学相談・進路指導体制の充実と、進路指導情報の活発な発信が課題となる。	① 学部間の緊密な連携によるキャリア教育・職業教育の充実 ② 学校就学相談・進路指導に関する情報の見える化の推進	①-1 学部間での情報共有の効果的な機会や仕組みの設定 ①-2 各市関係課、企業、ハローワーク、商工会等の外部関係機関との連携 ② 学校就学相談・進路指導を俯瞰可能な見える化の工夫の実施とHP及びその他の媒体も有効活用した情報発信	①-1 進路先が求める力を伝え、児童生徒個々の情報を的確に共有したか。 ①-2 外部機関と緊密に連携し、適切な情報提供を行ったか。 ②-1 本校の学校就学相談・進路指導が一望可能な情報媒体は作成できたか。 ②-2 進路指導に関する情報発信数は昨年度よりも増加したか。				